



海外で活躍する建設コンサルタント技術者が、独特の目線で各国を紹介するコーナーです。

OVERSEAS

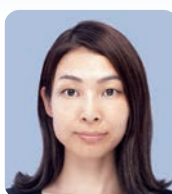
The Republic of South Sudan

— 南スーダン共和国 —

海外事情



世界で一番新しい国 南スーダン共和国へようこそ！



小谷 倫加恵 KODANI Rikae

八千代エンジニアリング株式会社／事業統括本部海外事業部／チームリーダー（資源循環）／コンサルタント

ようやく現地を

2022年6月から「南スーダン国ジュバ市きれいな街プロジェクト」という廃棄物管理能力強化を目的とした技術協力プロジェクトに参画しています。このプロジェクトには2017年2月から携わっており、今回で3つ目のプロジェクトになりますが、安全上の理由からこれまで一度も現地を訪れることができませんでした。6年目にしようやく現地を訪れることができ、2022年7月中旬か

ら1か月ほど、南スーダンの首都ジュバ市に滞在しました。短い滞在期間ではありましたが、現地の生活事情や今回の現地滞在中に感じた南スーダンの魅力を紹介します。

南スーダンの概要

南スーダンは2011年7月9日に独立した世界で最も新しい国連加盟国で、人口約1,100万人、国土面積64万km²（日本の約1.7倍）の国です。公用語は英語で、日常会話では

ジュバアラビックも使われます。ディンカ族、ヌエル族をはじめ、64の部族から成る多民族国家で、全人口の約8割がキリスト教徒です。また、モスクの周辺にはイスラム教徒が集住している地域があり、人口の1割程度がイスラム教徒だと言われています。サハラ砂漠が印象的な隣国スーダンとは対照的に降水量が多く、肥沃な土地にも恵まれていて、街中には緑が溢れています。

一方、計40年以上に及ぶ内戦の影響で、国土全域で開発がほとんどなされておらず、「世界で最も貧しい国」の1つと言われています。主要産業は原油、農業、林業、畜産業、漁業で、南スーダン国民の大半は一次産業に従事しています。

武力衝突の歴史と治安状況

1956年にスーダンが英国とエジプトから独立して以降、長年の紛争の末、ようやく2011年に独立した南スーダンですが、独立して間もなく、部族間や石油利権をめぐる対立を背景に、度々武力衝突が発生しました。和平合意締結後も争いや暴力が頻発しており、2022年9月現在、

表1 数字で見る南スーダン

項目	南スーダンの状況
国内避難民	約200万人
食料支援を必要としている人	約830万人
人間開発指数 (HDI) ランキング	189か国中185位
国際貧困ライン以下の生活者 (2016年)	5人中4人

(出典: OCHA. (2022). Humanitarian Needs Overview-South Sudan.)

外務省の危険情報では、首都ジュバ市とのその周辺を除き、南スーダン全土に退避勧告（危険レベル4）が出されています。

際貧困ライン（1人1日1.9ドル）以下で生活しています。

現地での生活

ジュバ市では治安が回復しているとは言え、銃を使った犯罪なども発生していることから、現地滞在中は、防弾車で移動、指定ホテルでの滞在、18時以降の夜間外出禁止、無線での定期連絡訓練等、セキュリティ対策を十分に行いました。10年前のジュバ市は街中ですぐに殴り合いの喧嘩が始まり、流血

数字で見る南スーダン

国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）によると、2022年現在、南スーダンでは約200万人が国内避難民となっており、食料支援を必要としている人は約830万人にのぼります。人間開発指数（HDI）は189か国中185位と低く、5人中4人は国

事件がそこら中で発生しているような街だったと聞いていましたが、今は治安当局が目光らせていることもあり、街中も比較的穏やかです。そして、コミュニティポリスを帯同して、住宅地でコミュニティ活動を行うこともできました。

実際にジュバ市を訪れてみると、街の人々の表情には貧困や紛争による悲壮感はなく、平穏な日々を取り戻しつつあるようにも感じます。住民の方と直接話すことで、遠隔支援では気付きにくい現地の人々の繋がりが、いわゆるソーシャルキャピタル（社会関係資本）や当事者としての問題意識を肌感覚で知ることができました。

日常生活では、近所のスーパーで輸入品を含む日用品を購入できるほか、インターネット通信も日本とオンライン会議ができる程度の回線速

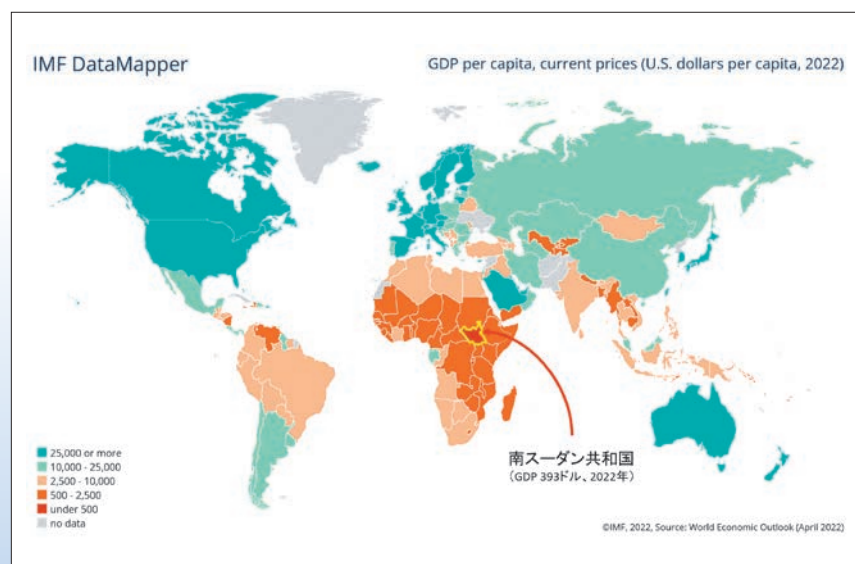


図1 世界の一人当たりGDP (2022年)
(出典: 国際通貨基金 (IMF)「世界経済見通し」(2022年4月)を元に筆者加筆)



写真1 首都ジュバ市の東を流れる白ナイル川



写真2 南スーダンのおもてなし料理（ウガンダスタイル）



写真3 一般的なランチ（スーダンスタイル）

度があり、覚悟していたほど大きな不便はありませんでした。

文化・地理的特徴と国民性

南スーダンは、スーダン、エチオピア、ケニア、ウガンダ、コンゴ民主共和国、中央アフリカと6か国と国境を接する内陸国です。そのため、文化や風習、生活様式、食生活、インフラ等、様々な面で周辺国の影響を強く受けています。

教育制度等はイギリスの制度を踏襲しており、元宗主国の影響も垣間見られました。現地の人々はこのような違いを自分達の生活の一部として柔軟に受け入れており、良い意味での適応さや異文化が融合している街の風景が、南スーダンの魅力の1つになっているように感じました。

食事

食事は、短期間の滞在生活の中で南スーダンの多様性を最も身近に感じる例でした。

写真2は、南スーダン政府の職員

の方が振る舞ってくださった手料理です。写真手前のクドラ（Kudhra：モロヘイヤをすりつぶしたもの）やキスラ（Kisra：白テフのクレープ）は、日常的によく食べていました。皿に取り分けて個別に食べる方式はウガンダスタイルらしく、1つの大きな皿に乗った食事をみんなで囲みながら手で食べるスーダンスタイルと、両方共存しているようです。

また、エジプトやスーダンの庶民食であるフル（煮豆と玉ねぎやチーズを混ぜて油をまぶしたもの）やエチオピアのインジェラ（キスラと同じもの）など、様々な国の料理を1度に味わうことができるのも、南スーダンの食事の魅力の1つと言えます。

経済状況

南スーダンのインフレ率は非常に高く、2016年には過去最高の前年比380%（世界銀行）を記録してい

ます。通貨は南スーダンポンド(SSP)で、最高額紙幣は1000SSPです。これは、日本円に換算すると約220円で、日常生活を送るだけでも財布に入り切らないような札束を持ち歩かなければなりません。

家族構成

南スーダンでは平均寿命が57歳（2020年時点）と非常に短いですが、どの家庭も比較的子沢山で、一



写真4 通貨（南スーダンポンド）



写真5 現地スタッフと南スーダンの子どもたち



写真6 ジュバ市内の川沿いの不法投棄

般的に1家庭は4～20人程度と大所帯です。

交通

地元の人はタクシー（matoto）やバス、オートリキシャ等で移動しています。また、1台のモーターバイク（bodaboda）に複数人で乗っている姿もよく見かけます。

空港からジュバ市内までは3～4kmと比較的近く、ジュバ市の道路舗装率は2%（2012年）と大変低いですが、市内と空港を繋ぐ幹線道路は全て舗装されていました。

ごみ処理

どうしてか川を見るとごみを捨てたくなってしまう人間心理は世界共通のようで、ジュバ市内の至るところで川沿いに大きな不法投棄場ができていました。4年間のプロジェクトで、この状態の川や街をどこまで綺麗にできるのか「挑戦」です。

女性の社会進出

ジュバ市役所の女性清掃員のみなさんに話を聞いてみたところ、南スーダンでは家庭における性別役割分業の意識はあるものの、就業

上の大きな不利益や差別は感じていないとのことでした。ジュバ市の廃棄物関連職員305名の内、153名（50%）が女性であり、環境衛生局の副局長にも女性が就任していることから、少なくともジュバ市においては女性の社会進出や男女平等の意識は比較的浸透している印象を受けました。

温かさやたくましさ

ここで紹介できた内容は南スーダンの魅力のほんの一部だと思います。まだまだ自由に現地渡航ができる状況ではありません

が、本稿が、過酷な生活環境の中でも支え合って生きている南スーダンの人々の温かさやたくましさを、少しでも多くの人に知って頂くきっかけになれば幸いです。

南スーダンの方々の平穏な生活が守られますよう、平和構築への期待を込めて、締め言葉とさせていただきます。



写真7 ジュバ市環境衛生局の女性清掃員

<参考資料>

- 1) 外務省「南スーダン共和国基礎データ」（2021年6月4日時点）
- 2) 世界銀行「年間平均降雨量」スーダン250mm、南スーダン900mm（2017年）
- 3) 国際通貨基金（IMF）「世界経済見通し」（2022年4月）
- 4) 外務省「海外安全ホームページ」（2022年9月11日閲覧）（https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_301.html#ad-image-0）
- 5) African Development Bank (AfDB) Group "South Sudan: An Infrastructure Action Plan 2013"